

船舶事故調査報告書

平成23年9月15日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 石 川 敏 行

事故種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成22年8月21日 13時05分ごろ
発生場所	東京都御蔵島村御蔵島港西側岸壁先端 （概位 北緯33°53.8′ 東経139°35.3′）
事故調査の経過	平成22年10月5日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨客船 かめりあ丸、3,837トン
船舶番号、船舶所有者等	128872、東海汽船株式会社
L×B×D、船質	102.87m×15.00m×8.55m、鋼
機関、出力、進水等	ディーゼル機関2基、合計5,295kW、昭和61年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 54歳 三級海技士（航海） 免 許 年 月 日 平成22年6月6日 免 状 交 付 日 平成22年4月27日 免状有効期間満了日 平成27年6月5日
死傷者等	なし
損傷	本船の右舷外板中央部に凹損、岸壁の防舷材が損傷
事故の経過	本船は、船長ほか22人が乗り組み、乗客67人を乗せ、御蔵島港岸壁の西側に右舷着けで着岸するため、同岸壁中央付近に向けて北東進し、岸壁前面で左回頭したのち、船尾を岸壁に寄せるために左舵を取って前進とした。 本船は、船首部が岸壁先端から出たところで東への潮流によって右舷側へ圧流されたことから、バウスラスターを左一杯にし、舵中央として両舷後進半速としたが、平成22年8月21日13時05分ごろ、右舷外板中央部が岸壁西側の先端に衝突した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東 風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
その他の事項	船長は、入社以来、約36年間の船員経験を有し、約2年前から一等航海士兼船長として御蔵島港にも出入港していた。 御蔵島北西部に位置する御蔵島港は、防波堤がなく、海に直接岸壁が突き出しているために岸壁付近の潮流が複雑であった。 船長は、御蔵島港の岸壁東側付近がうねり約1.5mであり、状態が良くないとの情報を得ていたことから、岸壁西側へ着岸することにした。 船長は、岸壁先端付近での上げ潮時の潮流は、東流であることは知っていた。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、御蔵島港岸壁の西側に右舷着けで着岸作業中、船首部が潮流によって左方に圧流されたことから、右舷外板中央部が同岸壁先端に衝突したものと考えられる。 船長が、潮流の強さを過小に想定していた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が、御蔵島港岸壁の西側に右舷着けで着岸作業中、船首部が潮流によって左方に圧流されたため、右舷外板中央部が同岸壁先端に衝突したことにより発生したものと考えられる。	